

用語集

用語	説明
RE100	「Renewable Energy 100」の略称で、企業が自らの事業の使用電力の100%を再生可能エネルギーで賄うことを目指す国際的なイニシアチブのこと。
EV	「Electric Vehicle（電気自動車）」の略称で、外部の充電器からバッテリーに充電した電気、モーターを回転させて走る自動車のこと。
営農型太陽光発電	農地に支柱を立てて上部空間に太陽光発電設備を設置し、太陽光を農業生産と発電とで共有する取組のこと。作物の販売収入に加え、売電による継続的な収入や発電電力の自家利用等による農業経営の更なる改善が期待できる。
エコドライブ	省エネルギーと排気ガスの削減に役立つ地球環境に配慮した運転のこと。主な内容として、アイドリングストップの励行、経済速度の遵守、急発進・急加速・急ブレーキの抑制、適正なタイヤ空気圧の点検などがある。
SDGs	「Sustainable Development Goals」の略称で、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。
温室効果ガス	大気中の二酸化炭素やメタン、代替フロン（HFCs）等、太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあるガスのこと。
カーボンバジェット（炭素予算）	カーボンバジェットとは、バジェット（予算）とあるように、気温上昇を予め決めた目標までに抑えようとした場合、今後排出可能な温室効果ガスの総量が決まってしまうということを示しています。IPCCの1.5℃特別報告書では、産業革命以前と比べて地球気温の上昇を66%超の確率で1.5℃以内に抑えるために、2018年時点で許されるカーボンバジェットは420GtCO ₂ ～570GtCO ₂ であるとしています。
カーボンオフセット	日常生活や経済活動において避けることができないCO ₂ 等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方のこと。
家庭エコ診断	資格試験に合格した専門の診断士が、各家庭のライフスタイルにあわせた省エネ、省CO ₂ 対策を提案するサービスを提供することにより、受診家庭の効果的なCO ₂ 排出削減行動に結びつけるもの。
気候危機	「気候変動は私たちが思っているよりも急激に進み、一刻も早く対策を打たなければ手遅れになる」という考えから、気候変動よりもより緊急性を上げて使われるようになった言葉。英語では「Climate risk」「Climate crisis」「Climate emergency（気候非常事態）」などと呼ばれる。

用語	説明
気候変動	気温及び気象パターンの長期的な変化のこと。これらの変化は太陽周期の変化によるものなど、自然現象の場合もあるが、1800年代以降は主に人間活動が気候変動を引き起こしており、その主な原因は、化石燃料（石炭、石油、ガスなど）の燃焼となっている。
共同輸配送	複数の企業が同じ輸送・配送先の荷物を持ち寄り、同じトラックやコンテナなどに積むなど、共同で輸送や配送を行う仕組みのこと。
区域施策編	地方公共団体の地球温暖化対策実行計画は、大きく分けて「事務事業編」及び「区域施策編」の2つから構成される。区域施策編は、地方公共団体の区域内の排出、すなわち住民・事業者も含む排出削減計画。
現状すう勢（BAU）ケース	今後追加的な対策を見込まないまま人口や従業者数などの活動量が変化した場合、活動量当たりの温室効果ガス排出量が現状から変化しないとの想定で推計した温室効果ガス排出量のこと。
原単位	一定量の生産物をつくるために使用する、または排出するモノや時間などの量のこと。
交通弱者	公共交通機関が使えない・使いにくさを感じている人、街を歩く（移動する）のに困難・不便を感じている人、自家用車を運転できない人などの移動困難、不便を抱える方たち及び子供や高齢者などの交通事故に遭うリスクの高い方たちのこと。
コージェネレーション	天然ガス、石油、LPガス等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収する熱電併給システム。回収した廃熱は、蒸気や温水として、工場の熱源、冷暖房・給湯などに利用でき、熱と電気を無駄なく利用できれば、燃料が本来持っているエネルギーの約75～80%と、高い総合エネルギー効率が実現可能。
COP27	国連気候変動枠組条約第27回締約国会議。気候変動対策の各分野における取組の強化を求めるCOP27全体決定「シャルム・エル・シェイク実施計画」、2030年までの緩和の野心と実施を向上するための「緩和作業計画」が採択された。加えて、ロス&ダメージ（気候変動の悪影響に伴う損失と損害）支援のための措置を講じること及びその一環としてロス&ダメージ基金（仮称）を設置することを決定するとともに、この資金面での措置（基金を含む）の運用化に関してCOP28に向けて勧告を作成するため、移行委員会の設置が決定された。
サーキュラーエコノミー	従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済（線形経済）に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済のこと。
再生可能エネルギー/再エネ	太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスといった永続的に利用することができるエネルギーのこと。温室効果ガスを排出せず、国内で生産できることから、エネルギー安全保障にも寄与できる有望かつ多様で、重要な低炭素の国産エネルギー源として注目されている。
事務事業編	地方公共団体の地球温暖化対策実行計画は、大きく分けて「事務事業編」及び「区域施策編」の2つから構成される。事務事業編は、地方公共団体の施設・事業からの排出に関する削減計画。

用語	説明
省エネルギー/省エネ	エネルギーを効率よく使うこと。
省エネルギー診断	専門家が家庭や事業所のエネルギー使用状況や管理運営状況を把握、分析し、必要に応じて現地調査を行い設備機器の運用改善や機器更新を提案し、エネルギー削減対策を提案するもの。
小水力(発電)	水力発電のうち、ダム等に設置された大規模な水力発電ではなく、河川や水路に設置した水車等を用いてタービンを回し発電する小規模な水力発電のこと。
将来推計	将来に予想される変化・影響・効果などを定量的に試算すること。
食品ロス	本来食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食べ物のこと。家庭では、食べ残しや、調理時に皮を厚くむきすぎるなどの過剰除去、消費期限や賞味期限切れなどによる直接廃棄などが主な原因。日本では平成29(2017)年度に、約612万トンの食品ロス(事業者から約328万トン、家庭から約284万トン)が発生したと推計されており、可燃ごみとして燃やすことによるCO2排出などの環境負荷も問題となっている。
スマートメーター	各家庭等への設置が進む双方向通信機能を有する電力計のこと。30分ごとの電力使用量を計測することができ、また、遠隔でその情報を取得することが可能。
製造品出荷額	当該事業所の所有に属する原材料によって製造されたもの(原材料を他に支給して製造させたものを含む)を、1年間に当該事業所から出荷した場合の額のこと。
ZEH(ゼッチ)	「Net Zero Energy House」の略称で、快適な室内環境を実現しつつ、省エネルギーにより使用するエネルギーを減らし、再生可能エネルギーにより使用するエネルギーを創ることで、建物で消費するエネルギーの収支をゼロにする家のこと。
ZEB(ゼブ)	「Net Zero Energy Building」の略称で、快適な室内環境を実現しながら、省エネルギーにより使用するエネルギーを減らし、再生可能エネルギーにより使用するエネルギーを創ることで、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにする建物こと。
ゼロエミッション車	走行時にCO2などの排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)のこと。充電する電気の発電やFCVの燃料の水素をつくるのに石油や石炭、天然ガスなどを用いれば、純粋な意味でゼロエミッションとはいえない。
ゼロカーボン	CO2をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引いて、実質的にゼロにすること。温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。カーボンニュートラル、ネットゼロ、脱炭素と同義。
脱炭素	温室効果ガスの人為的な排出量と森林等の吸収源による除去量との均衡(世界全体でのカーボンニュートラル)を達成すること。ゼロカーボン、カーボンニュートラル、ネットゼロと同義。
脱炭素型ライフスタイル	CO2を始めとする温室効果ガスを排出しない、又は排出量を抑えた物やサービス、生活の様式を選ぶこと。

用語	説明
地域循環共生圏	地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカルSDGs 事業）を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくとともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方のこと。
地域新電力	地方自治体の戦略的な参画・関与の下で小売電気事業を営み、得られる収益等を活用して地域の課題解決に取り組む事業者のこと。
地域マイクログリッド	限られたコミュニティの中で、太陽光発電やバイオマス発電などの再生可能エネルギーで電気をつくり、蓄電池などで電力量をコントロールし、当該コミュニティ内の電力供給を賄うことのできる＝エネルギーの地産地消ができるシステムのこと。バイオマスなどの地産地消型再生可能エネルギーの導入を促進させるとともに、地震や台風などの災害により停電が発生した場合には、平常時は電力会社等と繋がっている送配電ネットワークを切り離し、地域単独のネットワークに切り替えることで安定的に電力の供給ができる、災害時にも活躍するシステム。
地球温暖化	人間の活動の拡大により CO2 をはじめとする温室効果ガスの濃度が増加し、地表面の温度が上昇すること。
地中熱	昼夜間又は季節間の温度変化の小さい地中の熱的特性を活用したエネルギーのこと。
導入ポテンシャル	設置可能面積や平均風速などから求められる理論的なエネルギー量から、自然要因、法規制などの開発不可となる地域を除いて算出されるエネルギー量のこと。
トップランナー制度	自動車の燃費基準や電気機器（家電・OA 機器）等の特定機器に係る性能向上に関する製造事業者等の判断基準を、現在商品化されている製品のうちエネルギー消費効率が最も優れているもの（トップランナー）の性能、技術開発の将来の見通し等を勘案して定めることとし、機械器具のエネルギー消費効率の更なる改善の推進を行う取組のこと。
ネットゼロ	温室効果ガスの排出量から吸収量や除去量を差し引いて「正味ゼロ」とする考え方のこと。「脱炭素」と同義。
バイオマスプラスチック	原料として植物などの再生可能な有機資源を使用するプラスチックのこと。
排出係数	CO2 の排出係数。1kWh の電気を供給するためにどのくらいの CO2 を排出しているかを示す指標のこと。排出係数は、その年度の水力、火力、原子力などの発電方法の割合によって異なり、毎年変動する。
パリ協定	2015 年に、温室効果ガス排出削減のための新たな国際的枠組みとして採択された、京都議定書に代わる 2020 年からの温暖化対策の国際ルールのこと。（今世紀後半に温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする脱炭素社会を目指すこととされ、2020 年 1 月に運用開始）。
PPA	Power Purchase Agreement の略称。電力販売契のことで第三者モデルとも呼ばれる。企業・自治体が保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を企業・自治体が施設で使うことで、電気料金と CO2 排出の削減ができる。設備の所有は第三者が持つ形となるので、資産保有をすることなく再エネ利用が実現できる。

用語	説明
FIT 制度	正式名称は「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」であり、再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度のこと。
FIP 制度	「フィードインプレミアム (Feed-in Premium)」の略称。FIT 制度のように固定価格で買い取るのではなく、再エネ発電事業者が卸市場などで売電したとき、その売電価格に対して一定のプレミアム（補助額）を上乗せすることで再エネ導入を促進する。
FEMS（フェムス）	「Factory Energy Management System」の略称で、工場における生産設備のエネルギー使用状況・稼働状況等を把握し、エネルギー使用の合理化及び工場内設備・機器のトータルライフサイクル管理の最適化をはかるためのシステムのこと。
HEMS（ヘムス）	「Home Energy Management System（家庭用のエネルギー管理システム）」の略称で、電気やガス等のエネルギー使用状況を適切に把握・管理し、削減につなげる。HEMS では、家庭内の発電量（ソーラーパネルや燃料電池等）と消費量をリアルタイムで把握して、電気自動車等のリチウムイオンバッテリー等の蓄電をすることで細やかな電力管理を行う。
BEMS（ベムス）	「Building Energy Management System」の略称で、建物に設置された設備、機器等のエネルギー使用量を「見える化」とするとともに、効率よく「制御」することで、エネルギー消費量の最適化・低減を図るシステムのこと。
メガソーラー	発電規模が 1,000kW 以上の大規模な太陽光発電システムによる発電のこと。一般的に、1,000kW 以上のメガソーラーを設置するためには、約 2 ヘクタールの土地が必要と言われている。
木質バイオマス	木材に由来する再生可能な資源のこと。主に、森林を伐採した時に発生する枝・葉などの林地未利用材や、製材工場などから発生する樹皮やおがくずなどの製材工場端材、住宅の建設や解体の際に発生する建設発生材など。